

2024年4月1日

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ
(コード番号 8306)

新中期経営計画について

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ（代表執行役社長 ^{かめざわ ひろのり} 亀澤 宏規、以下 MUFG）は、2024年度からの3年間を計画期間とする中期経営計画（以下中計）を策定いたしました。

約3年間にわたるコロナ禍を経て、AIを始めとしたデジタル技術の発展と日常への浸透、クリーンエネルギーを中心とした社会・経済構造への転換、人々の働き方や価値観の多様化といった動きは加速しています。加えて、地政学リスクの増大やグローバル化の揺り戻しなどの「分断」も顕在化しています。

グローバルに社会・経済の構造が大きく変わる時代においては、MUFG が持つ広範なネットワークや多様なソリューションが持つ「つなぐ」機能を最大限発揮できると考えております。この機会を捉えて更なる成長を遂げ、パーパスである「世界が進むチカラになる。」を実現することで、ステークホルダーのみなさまの期待に応えてまいります。

1. 基本方針

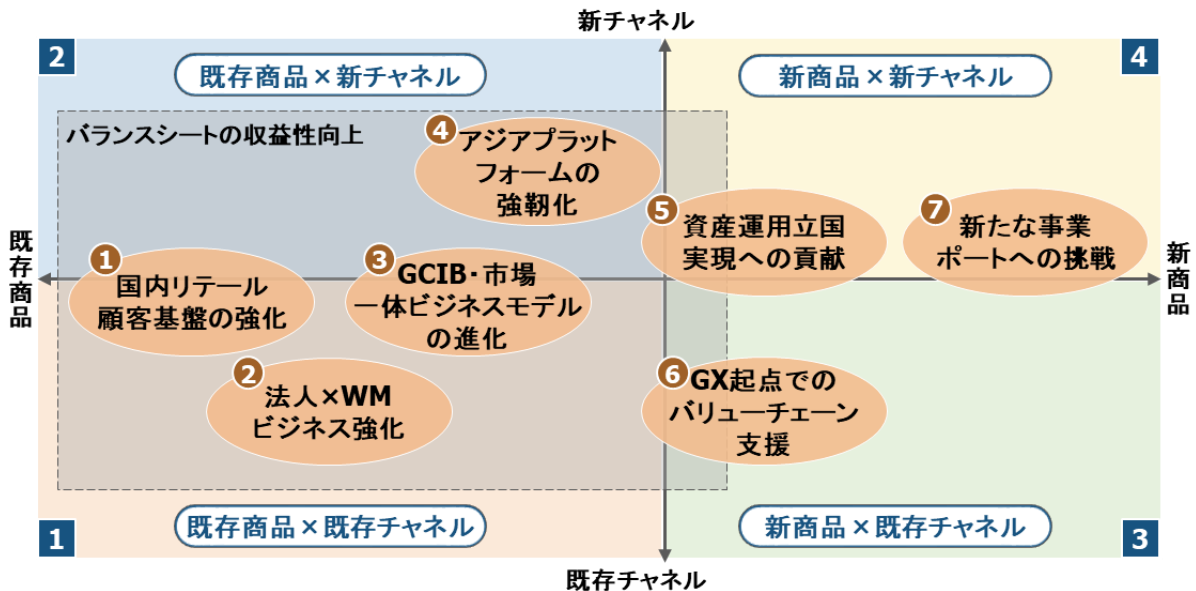
MUFG のビジネスを取り巻く環境が大きく変わる機会を捉えて、2024年度からの計画期間を「成長」を取りにいく3年間と位置付けます。成長戦略を進化させるとともに、社会課題解決への貢献を中計の柱に据え、取り組みを一層強化いたします。また、中長期的な成長も見据えた経営基盤強化やカルチャー改革などの企業変革も加速させてまいります。これらの取り組みを通じて、2026年度にROE9%程度の実現をめざします。

| | | | |
|----------|----------------|--|--------------------|
| MUFG Way | Purpose | 世界が進むチカラになる。 | |
| | Values | 信頼・信用／プロフェッショナリズムとチームワーク／挑戦とスピード | |
| | Vision | 世界に選ばれる、信頼のグローバル金融グループ | |
| 新中計 | 基本方針 | —「成長」を取りにいく3年間— 分断の時代の中で「つなぐ」存在となることで、 経済的価値のみならず社会的価値も追求し、世界が進むチカラになる | |
| | | 成長戦略の進化 ～成長をつかむ | 社会課題の解決 ～未来につなぐ |
| | | 企業変革の加速 ～会社が変わる | |
| | 財務目標 | 2026年度ROE: 9%程度 | |

2. 中計の3本柱

(1) 成長戦略の進化 ~成長をつかむ

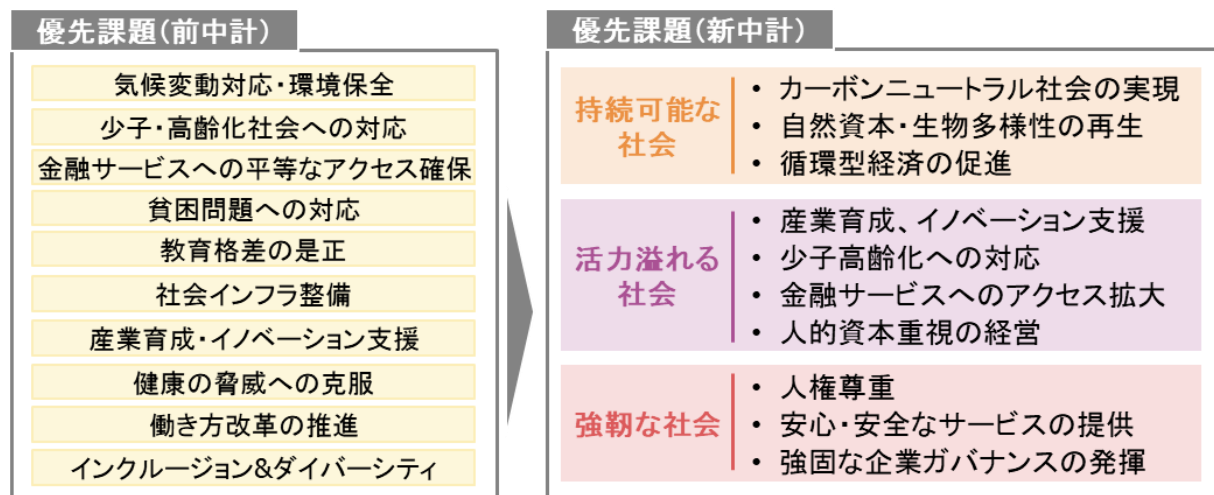
新中計におけるMUFGの戦略を「商品×チャネル」の4象限で検討した上で、「成長をつかむ」ための7つの成長戦略を策定いたしました。金利環境の変化を踏まえたバランスシートの収益性向上など、既存のビジネスモデルを更に強化するとともに、新しい商品・サービスの提供や新しいチャネルを通じたお客さまとの接点の拡大による成長をめざしてまいります。



(2) 社会課題の解決 ~未来につなぐ

MUFGでは持続可能な環境・社会の実現に向け、サステナビリティ経営において優先的に取り組む課題（以下優先課題）を設定していますが、環境変化やそれに伴う世の中の期待、事業における重要性を踏まえて見直しを行いました。社会課題解決への貢献を経営戦略と一体化させ、取り組みを一層強化してまいります。

サステナビリティに関する取り組みについては本日のプレスリリース「[MUFG Climate Report 2024・MUFG TNFDレポートの発行、その他サステナビリティに関する取り組みについて](#)」をご参照ください。



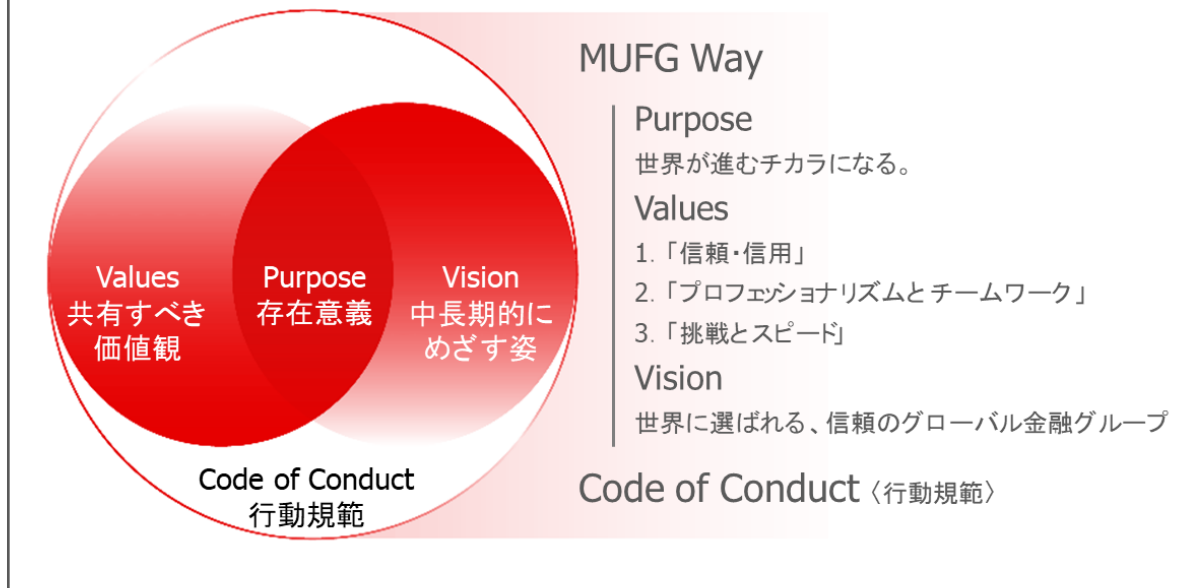
(3) 企業変革の加速 ~会社が変わる

お客さまから信頼され、選ばれ続ける存在であるために、スピード改革などのカルチャー改革や、人的資本の拡充、システム開発リソースの増強、AI・データ基盤の強化といった経営基盤の強化に取り組むとともに、リスク管理やコンプライアンスの更なる向上に努め、企業変革を進めてまいります。

<MUFG Way の改定について>

MUFG では2021年に、新たに定義した「存在意義(Purpose)」、「共有すべき価値観(Values)」、「中長期的に目指す姿(Vision)」から構成される MUFG Way を制定いたしました。パーパスには「全てのステークホルダーが次へ、前へ進むためのチカラになる。」との決意を込め、ステークホルダーの課題を起点とした戦略立案・遂行により、パーパスの実現に取り組んでいます。

このたび、中計の3本柱の1つである企業変革の加速を実現するために、MUFG Way を構成する Values を変更することといたしました。Values に新たに「スピード(Agility)」の要素を加え、お客さまに先進性のある商品・サービスを提供するとともに、従業員一人ひとりの自律的な行動を後押しすることをめざします。



以上